

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 「自立と共生を求めて、個性が響き合う、しなやかな社会を目指す」を法人の理念としています。 2) 保育の理念もこれに呼応して、授かって、今あるこの「生命の奇跡」に感謝を第一として、心身ともに安全な保育を目指す、安心してお預かり出来る信頼のおける保育を目指すの「感謝・安全・安心」を掲げます。 3) 保育の基本方針を「子どもの育つ力を伸ばし、あたたかく育む」とし、豊かな感性と思いやりの心、自然を大切に作る心、丈夫な身体と感謝の気持ちを育てることを目指します。 4) 職員の行動指針として【感謝】【安全】【安心】【研鑽】を掲げます。 5) 保育業務の優先順位を1. 安全 2. 安心(信頼)3. 生きる知恵 4. 自主 5. 自立と定めています。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者である限り、子ども達がスーッと寄ってきてくれるような人間的にぬくもりの感じられる人 ・子どもの日々の育ちを日常生活の中で、心から共感し合える保育者 ・どの業務も進んで取り組む、積極性のある人 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純粋に子どもたちがどう遊んでいるのか、どう動いているのかを考え、自らで気づけるように意識する事 ・保護者の皆様が安心して頂けるようサポートしている自覚を持つ事 ・常に向上心をもって、保育の知識の習得や技術の向上に努力する事

調査対象

2021年11月1日現在の施設の利用者(保護者) 22世帯(利用者総数 22名)を対象とした。

調査方法

アンケート(自記式)。施設にて担任が保護者に手渡しする形で調査票を配付。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送又は施設に設置した回収箱による回収。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

22
22
22
22
100.0

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、100%(22人)となっている。

●各カテゴリーのうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

- 問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
 - 問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか
 - 問3. 事業所で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか
 - 問4. 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか
 - 問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか
- (各々 100%、22人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	22	0	0	0
園に通っていることで驚くほど成長していると感じます。お友達との関わりの様子など聞き、ほほ笑ましいです。リズムや歌など、園での活動を家でもよくやっています。絵や工作なども楽しい様で、持ち帰った作品をほこらしげに両親に見せてくれます。 などの意見があった。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	22	0	0	0
家ではできない季節の行事をして下さり、色々な事に興味を持てると思います。ピヨリンピックやハロウィンなど、とても楽しそうです。生き物の飼育と食育は特に感謝しています。 などの意見があった。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	22	0	0	0
苦手な野菜も味つけや切り方などで子どもがよく食べています。お誕生日ケーキもとても美味しそうで、子どもが楽しみにしているようです。 栄養バランスがしっかりとれていて、一日の食事の栄養分はこれでしっかり摂れていると思える程おやつも質が良い。 などの意見があった。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	22	0	0	0
雨天の日も含めほぼ毎日散歩に出掛け、地域との触れ合いをしてくれている。 散歩で色々な公園に行き、子どもはとても楽しそうです。またハロウィンや運動会など季節毎の行事も盛りだくさんだと思います。 などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	21	0	0	1
何か予定がある場合は相談に応じてくれています。 といった意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	17	4	0	1
職員の方一人一人の意識が高いことが普段の会話から伝わってきます。 といった意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	18	3	0	1
保護者会を土曜日に開催して頂き、ありがとうございます。 といった意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	20	2	0	0
日々の送迎の中でも、その日あったことや様子を丁寧に教えてくれ安心します。 何でも話しやすい雰囲気がある。どの先生も感じが良く、親身に話を聞いてくれる。 などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	2	0	0
いつも玄関がきれいに整理されていて、展示物も季節ごとに変わっており、清潔になっていると感じます。 といった意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	21	1	0	0
気さくで話しかけやすく、いつも丁寧に対応して頂いています。 いつも笑顔で丁寧だと思います！気になった事は一度もありません。 などの意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	21	1	0	0
電話でこまかく状態を教えて下さり、連絡もして頂いています。 少しのケガでも細めに教えていただき、配慮いただいています。 などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	18	2	0	2
見守る時は見守り、間に入る必要がある場合は入って頂いたりよく子どもたちのことを見ていてくれるなど感じます。 とても適確に子どもが納得できるように対応して下さいます。親の私より子どもに寄り添って下さっています。 などの意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	22	0	0	0
1人1人の個性や環境をしっかり理解した上で、とても丁寧な保育をして頂いていると思います。 イヤイヤ期で何でも「ヤダ」と言っておりますが、子どもの気持ちを一度受け入れ、次の行動を促してくれています。成功例を伺い、自宅でも実践しています。 などの意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	21	0	0	1
特に気になったことはありません。 といった意見があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	20	2	0	0
登降園の際や連絡ノートなどを通じて、わかりやすく説明頂けていると感じます。 連絡帳にくわしく書いて下さるので、毎日読むのが楽しみです。 などの意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	17	2	0	3
特筆すべき意見なし。				
17. 外部の苦情窓口(行政等)にも相談できることを伝えられているか	10	8	1	3
今までそのような状況がない。 まだそういう事案がないです。 などの意見があった。				

I サービス提供のプロセス項目（サブカテゴリー1～3、5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
◎あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>法人や区のホームページには保育理念や園の概要、入園関係の情報が提供されている</p> <p>法人のホームページの施設一覧表には、保育園の運営は、待機児問題の解消の役割があるとし、基本理念や保育理念・基本方針・職員の行動指針とともに、保育室の写真や入園までの流れや施設概要・アクセスなどを掲載している。区のホームページの施設案内には、住所・電話番号・対象年齢・定員・保育時間・マップなどの情報を掲載したり、入園申込みの情報も掲載されるなど、利用希望者が様々な方法で園の情報を入手できるようになっている。入園の決定は区だが、希望者が多い状況がある。</p> <p>園の情報は定期的に行政に報告し、区の保育所案内のアプリに掲載してもらっている</p> <p>三つ折りの園のしおりの作成は、行事などの見直しもあるので園で作成し、必要に応じて随時更新をしている。しおりには、QRコードをつけるなど情報の入手がしやすいように配慮し、見学者に配付している。行政から毎年、定員数や保育方針などの問い合わせがあり、情報を提供し、保育施設利用のご案内の冊子に基本情報を掲載している。区の保育所・幼稚園の案内アプリのすざぼよ(保・幼)は、区の保育施設一覧表や入園申し込みができるようになっており、園の情報を掲載してもらっている。</p> <p>入園希望者には電話で受け付け、子どもの姿が見られる時間帯に見学を設定している</p> <p>入園の希望者には、電話で申し込んでもらい、見学日は見学者の都合で選んでもらい、時間は子どもの様子を見ることができる午前10時と午後3時を進めている。1回に1組を受け入れ、30分から1時間程をかけて、園内を園長が案内している。見学者には見学記入表に、来園日や氏名・連絡先・アレルギーや既往歴・入園希望時期などを記入してもらっている。また、園の様子がわかるように、行事や食育の写真をファイルにして見せている。見学者からは園の特徴や発熱のお迎えの基準などの質問が寄せられ、丁寧に答えている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園が決定すると面接日を設定し、重要事項の説明をして利用契約を結んでいる</p> <p>入園の決定は、区から1月中旬には保護者に連絡がされ、保護者から園に連絡が入るようになっている。子どもに関する児童票・入園時健康診査事項・入園時健康調査票・入園までの生活状況などの書類は、保護者に事前に取りに来てもらい、面接の日時を伝えている。面接は2月末から3月上旬にかけて園長が行い、0歳児に対しては看護師が同席している。重要事項説明書に沿って、園長と法人の事務長で説明を行い、面接時に利用契約書を提出してもらっている。重要事項説明書と利用契約書は2部作成し、1部は保護者に渡している。</p> <p>入園面接で把握した子どもや保護者の情報は、職員会議で園長が口頭で報告をしている</p> <p>入園面接で得た子どもの個別の情報は、0歳児と1歳児の入園が大半なので、面接が終了するとすぐに職員会議を開催して、口頭で報告をしている。面接で直接聞いた情報は、新入園児関係情報として、園長が職員会議録に記録をして職員に周知できるようにしている。会議録の内容を確認したら押印をしている。その後、クラスの担任が決まると、児童票や入園までの生活状況や入園時健康調査票などを基に、職員間で共有できるようにしている。</p> <p>入園後2週間を目途に慣れ保育を実施し2歳児の保育終了時には個人面談を実施している</p> <p>入園直後には、保護者の就労状況に配慮しながら慣れ保育を実施している。0歳児はミルクの飲み具合を見て保護者の状況を考えながら、無理をしないように個別に対応して、約束した保育時間になるようにしている。1歳児は1日目は2時間過ごし、食事の様子を見て2日目から個別に対応している。職員体制は、1対1で対応し子どもの不安軽減に配慮している。2歳児までの園のため、転園をする保護者の不安解消に為、11月に平日の16時から土曜日に、1組1時間を取り個人面談をして保護者の思いを聞き取り、子どもの成長を確認できる場になっている。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別の計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別の計画の作成、見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

子どもの生活や発達は保育の経過記録に記録し個人面談で保護者の状況を把握している
入園後の子どもの生活や発達状況は、日常の保育で把握し、法人で定めた個別の指導計画や保育日誌、保育の経過記録などに記録し把握できるようにしている。健康状態に対しては、個別の記録の特記事項欄や保育業務日誌の特記事項欄に記録して把握している。保育の経過記録は、子どもの姿と大人の関わりの項目について、0歳児と1歳児は毎月、2歳児は2か月毎に、子どもの成長の様子や保育者のかかわりや配慮を記入日とともに記録している。個人面談の実施を再開し、0歳児は半年に1回、1歳児と2歳児は年1回実施し、面談後には記録をしている

全体的な計画は園長が作成し年間指導計画は期ごとに反省をして計画の変更はしていない
園長は、全体的な計画の作成時には相談者がいるので相談をした上で、一人で作成している。職員への周知はクラスの年間指導計画の作成時には必ず参加するので、その時に説明をしている。全体的な計画は子どもが違っているので毎年見直しをして、年間指導計画は期ごとに振り返りの反省を記入し、基本的なベースは変更しないようになっている。月の計画や週の計画は、簡単な会議を開き、内容を確認するようにしている。個別の計画が必要な子に対しては、年4回心理士の派遣があり、クラス担任も同席して助言を受け、職員会議で報告をしている。

事務連絡や情報は早番が伝え、保育の計画や記録は自由に確認できるようになっている
クラスの保育日誌は、早番の部屋に置かれ、保護者からの伝言などは赤字で記入している。まとまった伝言内容については、保育園業務日誌にも記録して情報の共有ができるようにしている。事務連絡や保護者の情報などを、おやつ時間帯に早番が各クラスを廻って伝達をして情報の漏れがないようにしている。短時間職員に対しては、指導計画や保育日誌などを自由に見ていいことを伝えてはいるが見に来ないので、園長が伝えるようにしている。パートナーとしての存在なので、今後改善が必要と考えている。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>重要事項に説明の際に、個人情報の外部との関係を保護者に説明し同意を得ている 入園時に重要事項説明書の中で、個人情報の取り扱いの説明をして、保育所内のサービスのために、会議や行政機関との連絡調整などで必要な場合や緊急時における情報提供などに対する同意書を保護者から提出してもらっている。また、ホームページなどの写真掲載の場合には、写真撮影及び販売同意書の提出もお願いしている。個人情報や写真掲載の取り扱いについては、口頭での説明になっているので、重要事項説明書やご利用のしおりに掲載するなどの検討が必要と思われる。</p> <p>小さくても一人の人間という認識で保育を行い、子どもが主役の考えを徹底している 小さくても一人の人間として見ることを大切にしたいと考え、子どもが園にいる時間を楽しく過ごすために、どうしたらいいのかを考えるようにしている。大人の都合ではなく、子どもが主役でいつも目の前にいる子どもにとって一番いいと思える保育ができるようにしている。子どものプライバシーを守るために、トイレには全園児分のオムツセットが用意され、おもつ交換はトイレの中で行うようにしている。着替えの時には全裸にならないように、上を脱いたら上を、下を脱いたら下を着るなどを徹底して行うようにしている。</p> <p>法人の虐待防止委員会に参加し情報を共有し、全体研修で学ぶ機会をもっている 毎月法人の虐待防止委員会が開催され、情報の共有ができる場をもち、虐待対応研修を常勤職員は年4回受講している。ピヨピヨおうちえん憲章を外壁に掲示したり、年度初めの職員会議で読み合わせをしている。今後は、保護者に向けて説明をして行きたいと考えている。ピヨピヨおうちえんバージョンの虐待防止セルフチェックリストを年2回提出をして、その都度集計をして、問題があれば話し合うようにしている。虐待事例はないと考えているが、健康観察を丁寧に行い、今後事例が発生した場合には、区のサポートラインに相談をしようと考えている。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>業務の標準化を図るために、マニュアルや手順書を整備し、安全点検を毎日実施している</p> <p>業務の標準化を図るために、法人で作成した危機管理や事故対応・保健衛生管理など7種類のマニュアルを整備し、園独自に早番や遅番の手順書を作成し、更衣室にフローチャートとして掲示している。マニュアル関係は事務室の書棚に保存し、職員には、ピヨピヨおうちえん憲章やリズム遊びの資料を配付している。園内の安全点検は、保育業務日誌に遅番状況の欄があり、事務室・保育室・トイレ・玄関などの点検を毎日実施して、最終確認の時間や氏名を記録している。調理室の衛生管理や職員の健康状態を毎日確認し、月1回点検書類を園長に提出している。</p> <p>マニュアルや手順書の見直しは、必要に応じて実施し、改善をしている</p> <p>マニュアルや手順書の見直しでは、日常に実施している大人用や子ども用のトイレ掃除のマニュアルを見直すなど、コロナ禍での感染予防もあるので消毒に関する見直しをしている。マニュアルには作成日とともに、改訂の年・月・日を記入して見直しの確認ができるようにしている。日常の業務ではマニュアルや手引書を活用できるように事務室の書庫に保管され、いつでも見ることができることを伝えているが、園長や先輩に聞いて、業務を進めることが多くなっている。</p> <p>職員の意見で業務の改善をし、保護者アンケートを検討したいと考えている</p> <p>業務の水準を維持できるように、職員から様々な意見を言いやすい環境になるように配慮している。職員から玄関を換気のためにいつも開放しているが、防犯上から施錠する時間を作るなど、考えた方がいいのではないかという意見が出され、改善に繋げている。保護者とのコミュニケーションが取れているので必要がないと考えていた保護者アンケートは、今回の利用者調査を実施したことで様々な意見を把握することができたので、今後は定期的にも実施していきたいと考えている。</p>		

II サービスの実施項目(サブカテゴリー4)

サブカテゴリー4		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	37/37
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
○あり ○なし	6. 【5歳児が利用している保育施設のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	●非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの全体的な姿は保護者との会話や連絡帳などで把握して保育を行っている</p> <p>子どもの全体的な姿は、入園時には保護者が記入する児童票や、個別面接で成育歴や既往症などで把握する他、保育上の配慮事項等の聞き取りをしている。入園後は、送迎時の保護者との会話や連絡帳から生活状況の変化や、日々の保育の中で一人一人の発達過程を把握している。毎日の保育日誌には、子ども毎に検温、食事、睡眠、排便の有無等を記入し、体調の変化は特記事項に、伝達事項は引き継ぎ事項の欄に記入をしている。把握した一人一人の子どもの情報を基に、全体的な姿を捉え指導計画を作成し、保育に活かしている</p> <p>異年齢交流や巡回相談の助言を活かし子ども同士の関係性が育まれるように工夫している</p> <p>0歳児から2歳児までのクラスの編成で一クラスが5人～9人の在籍で22名と少人数となっている。朝の受け入れ時は7時30分～8時30分頃まで1歳児室を使用し、小さい子は大きい子の遊びの模倣や、大きい子は小さい子に優しくしながら、異年齢保育の中で子ども同士が関わりをもって遊んでいる。また、配慮を必要とする子どもについては、区の巡回相談を受ける仕組みがあり、心理士の派遣や保育課相談係とも連携がとれ、保育の観察後にアドバイスや助言を受けて、指導計画に反映させ実践に活かしている。</p> <p>発達の過程で生じるトラブルについては子どもの気持ちに添った対応を心掛けている</p> <p>かみつきやひっかき等、発達の過程で生じる子ども同士のトラブルについては、入園説明会やクラス懇談会で保護者に説明をして理解をしてもらえるように努めている。トラブルの場面では出来事に対して一方的に叱るのではなく、どうしてそうなったのか、双方の子どもの気持ちを聞いて代弁して仲介したり、それぞれの想いを受け止め、共感的な関わりを大切にしている。保護者には止められなかったことへの謝罪と状況を丁寧に説明している。職員はヒヤリハットや事故簿への記録と、度重なる場合には原因の分析を行い、全員で共有をしている。</p>			

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息・午睡等の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

登園時には保護者との会話や連絡帳を通して家庭での子どもの様子の把握している

コロナ禍のため入室は玄関までとし、登園時には玄関で受け入れをしている。連絡帳は、直接保護者から受け取り、その際に保護者と顔を合わせて、家庭での様子の聞き取りと検温、顔色や子どもの機嫌の良し悪しなどの健康観察を行っている。伝達事項は保育日誌の個別の引継ぎ事項欄に記入しており、保護者へ園から伝える内容に関しては赤字で記入して伝達もれを起こさないようにしている。また受け取った連絡帳はその場で確認をして子どもの状況の詳細を把握している。

基本的な生活習慣の自立に向けて子どもに無理がないように保護者と相談をして進めている

基本的な生活習慣の自立に向けて取り組む際には、子どもの発達の段階を捉えて、保護者と相談をしながら進めている。0歳児の午睡については必要なものと考え、生活の状況の把握をして午前寝を含め柔軟に対応している。夏頃までには子どもたちに睡眠のリズムの安定が見られるようになり、早く目が覚めてしまった子どもについては、別室で遊んで待てるよう配慮している。トイレトレーニングに関しては、午睡後の出していない時にトイレに座ってみることに始めて、取り組む際には保護者に子どもの様子の説明をして着替えのパンツ等の準備をお願いしている。

降園時には一人一人の保護者と対面で保育中の子どもの様子を伝えている

降園時には一人一人の保護者に連絡帳を手渡しして、保育中の子どもの様子や園からの伝達事項等を話している。降園時間が重なり保護者の待ち時間が増えてしまうことがあり、園長も日頃の子どもの様子等を話すこともある。利用者調査には、その日の様子を丁寧に伝えてもらうことで安心できていることや、連絡帳にも、毎日の様子が詳しく記入されているため、保育内容が分かりやすく、読むことを楽しみにしていること等の記載がある。コロナ禍で保育を見てもらう機会がないことから、日常の写真を沢山撮影して販売用のサイトに掲載している。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>集中して遊んでいる時にはプログラムの変更等を行い遊び込めるようにしている 各保育室の棚は子どもに合わせて設定して、発達や年齢に合わせて玩具が配置されている。職員が手作りした玩具の配置や玩具を入れるかごには写真を貼り、子どもが取り出しやすく片付けやすいようにしている。活動の内容に応じて保育室を交換して使用したり、マットを敷いてままごとや人形遊びのコーナーを作ったりして、遊びが広がるよう工夫した環境を整えている。子どもたちが集中して遊んでいるときには、プログラムの変更をして、時間を長く取って、見守り、遊びに満足できるように配慮している。</p> <p>音楽表現や造形遊びなど子どもが様々な表現活動を楽しめるように工夫をしている 新聞紙を使っての紙遊びや、片栗粉を煮てゲル状にした感触遊び等の他に、クレヨンや絵の具を使った描画や粘土(小麦粉、パン粉)の造形遊び等を行っている。音楽表現ではリズム運動や、園のオリジナルの歌や季節のうたを歌ったり、手作りのマラカスを使って歌や楽器に合わせて演奏をしている。毎日の朝の会では、箱の中に何が入っているかを当てるクイズに参加したり、職員が演じる寸劇を見たりする他、クラス毎に手遊び等を発表して子どもたちが様々な表現活動を楽しんで行っている。</p> <p>散歩や戸外活動を通して子どもの心身の発達が促されるように援助をしている 園庭がないため、散歩には毎日行き、午前中に出られない時には午後に出かけている。雨の日の散歩も計画をして実施しており、事前に保護者にレインコートや長靴等の雨具を用意してもらい、小雨の中での散歩を楽しんでいる。近隣には15分程度で行くことができる公園が7か所程あり、春には草花を摘んだり、秋にはどんぐりや松ぼっくり、木の葉を拾って制作に取り入れている。2歳児は捕まえてきたダンゴムシを観察したり、カタツムリは3年程飼育しており、卵からの孵化を見たり、餌をあげたりして小さな生き物を身近に感じている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの興味や関心を捉え、子どもも職員も楽しめる内容の行事を実施している 園の行事は日常保育の延長線上にあると捉え、子どもたちが楽しみに待ち望んだり、頑張ってやってみようという気持ちももてるような内容で実施したいと考えている。職員は園のオリジナルソングを作ったり、行事毎にネーミングを考えて、運動会は「ピヨリンピック2021」として、クラス懇談会は「ピヨっとおうち会」として実施をしている。今年のハロウィンでは0歳児はだるま、1歳児はサメに変身したり、2歳児は物語の中の宇宙人に変身して地域に出掛けている。職員も魔法の役になり変装をして物語を盛り上げている。</p> <p>行事で使用使用する制作物等を作り参加する喜びが感じられるよう援助している コロナ禍でクラス単位での実施が多く、少人数のため、可能な場合には、クラスのみんなが参加できる日に日程の変更をして実施することもある。また、行事で使用使用する衣装や道具等は、職員があらかじめ作ったベースのものにシールを貼ったり、絵を書いたりして子どもたちが身に付けて使っている。自分たちが作ったものを使って行事に参加することで、子どもたちが楽しみにする姿がある。園長は今後の行事の内容について楽しく参加することを最優先に、子どもたちにも行事本来の意味を分かりやすく伝え、理解を促したいと考えている。</p> <p>保護者には年度当初に行事予定表を配付して理解と協力が得られるようにしている 年度当初の入園お祝い会には在園児の保護者も参加をするため、年間行事予定表を配布して参加しやすいようにしている。日程の変更や保護者に事前の準備をお願いする場合には、送迎時に直接伝えたり、掲示をしている。行事の取り組みの過程は、口頭で伝えたり、号外のクラスだよりを年3回程発行して知らせている。運動会は子どものみでの実施となったが、その様子を懇談会の時に動画で上映したり、「ピヨっとおうち会」では、懇談会前に子どもたちが取り組んでできるようになった、リズム運動等を見てもらった機会を作っている。</p>		

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長い子どもに対しては、安心してゆったりと過ごせるよう工夫している</p> <p>園は7時30分～18時30分までの11時間を開所している。夕方の保育は17時30分頃には十数名の子どもたちでの合同保育となり、防犯上、真ん中に位置する1歳児室を使用している。朝(毎日)、夕方(週4日)の固定勤務での職員配置があり、常勤職員についてはシフトで対応している。固定で見慣れた職員がいることで担任以外の職員とも安心して過ごしている。3歳未満児園で少人数でもあり、職員と1対1で関わり、膝の上で絵本を読んでもらったりして、子どもがゆったりと落ち着いて過ごしている。</p> <p>合同保育に移行する時間帯でも子どもが楽しく過ごせるように配慮している</p> <p>朝は7時30分の受け入れ時より1時間程度、夕方は17時30分から18時30分までが合同保育の時間帯となる。合同保育時には、遊びを継続したい場合には玩具を持って行ったり、また、日中の保育時と違う玩具を使用したりしながら遊んでいる。遊びの途中で降園となってしまう場合には、子どもの思いを聞いて、作りかけのブロック等は保管して置く等の配慮をしている。夕方の時間帯ならではの活動内容として、スライドを天井に映し、寝転がって見たりすることもあり、くつろいだ中で楽しく過ごせるようにしている。</p>		
6 評価項目6 子どもが安全な環境のもと食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが安全に食事をとれるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>離乳食や除去食の提供時には誤食を起こさないよう安心・安全に注意を払っている</p> <p>離乳食については、初めての食品は家庭で摂取して、問題がなければ園でも食べるようにしている。段階を進める場合には、口の動きや咀嚼の様子等の発達を捉えて保護者と相談して進めている。園長は盛り付け前に検食をして、味付けや刻みの大きさ、硬さ、異物混入がないか等の確認をしている。また、アレルギー食を提供する場合には保護者からの聞き取りを丁寧に行って、医師からの生活管理指導表は区に提出している。提供時はアレルギー確認表に記入をして、名前とアレルゲンを書いたトレイに配膳して、席を決めて誤食を起こさないようにしている。</p> <p>メニューや味付けに工夫を凝らし、おいしく楽しく食べられるようにしている</p> <p>献立は2週間毎のサイクルメニューで栄養士が作成し、食材は新鮮な旬の物を使用して提供している。給食時には栄養士が各保育室を巡回し、子どもの喫食状況の把握その他、クラス担任も食べ具合等や嗜好等を把握して情報の共有をしている。把握した内容は次の回の献立に反映させ、おいしく食べられるように工夫している。職員会議の中でも給食についての対応を話し合ったり、報告等を行っている。また、毎月の誕生会には、誕生月や誕生児に関係する特大のケーキを作って提供しており、子どもたちは毎回楽しみにしている。</p> <p>食育計画を作成してクッキング等の食育活動に楽しんで取り組んでいる。</p> <p>年間の食育計画を作成し2歳児を中心とした食育活動の展開があり、食材の皮むきや行事にちなんだクッキング等を行っている。例えば、たけのこの皮むきや、お米とぎとおにぎり作り、うどん作り(踏み・切る)、餅つき、恵方巻作り等でその時の様子は、写真や食育の便りで保護者に発信して知らせている。8月の食育活動では、「かっぱ祭り」と称し、自分で作った河童の皿を頭に乗せ河童に変身をして、近所の八百屋に買いものに行っている。買ってきたキュウリをかじって食べたり、カッパ音頭を踊ったりしてカッパになりきって楽しんでいる。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当
評価項目7の講評		
<p>手洗いの徹底や散歩時には交通ルール等を伝えて衛生や安全指導を行っている</p> <p>保健年間計画に基づき、手洗い指導、夏の健康管理、生活リズム、感染症予防等についての指導と、区の配布物等を通して保護者に発信をしている。手洗いについては、歌に合わせて行ったり、子どもの側で丁寧な指導を行ってきたことで、皆が上手にできるようになったことを職員は実感している。また、散歩に出た際には交通ルールや横断歩道の渡り方等、交通安全について話をしている。12月より看護師が配置されたことにより、園として安心感につながり、今後は業務内容を検討し、連携を図りながら専門職の視点を活かしたいと園長は考えている。</p> <p>健康診断や身体計測を実施し結果を保護者に知らせて子どもの健康の維持に努めている</p> <p>嘱託医による健康診断は0歳児は毎月1回、1歳児以上は年に2回実施し、歯科検診は1歳児以上について年1回実施している。結果は「大きくなったかなカード」に記入をして保護者に知らせている。身体計測は毎月実施して連絡帳で知らせており、健康診断後に受診が必要となった場合には口頭で保護者に伝えてフォローをしている。発熱等の保育中の体調の変化については37度5分を目安に、子どもの機嫌や普段の様子との違いなどをよく観察して、水分補給をして、保護者には状況に応じて適宜連絡をするようにしている。</p> <p>SISDや感染症の情報は掲示や口頭で保護者に伝え予防や感染拡大の防止に努めている</p> <p>SIDA(乳幼児突然死症候群)の予防については入園時の説明会や懇談会などで知らせる他、強化月間にはポスター掲示で知らせている。午睡時は顔が分かる明るさを保ち、0歳児は5分毎に、1・2歳児については10分毎に、呼吸、顔色、寝姿などを確認して睡眠チェック表に記録を残している。感染症の発症時には、感染症の特徴や家庭看護時の注意事項等を記入して掲示や口頭で知らせ注意を促している。保育室内にはオゾン発生機や加湿器、オゾン玩具殺菌庫を設置して、手拭き、口拭き等もペーパータオルを使用し、感染症の予防に努めている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、保育施設の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労状況や個々の事情に配慮をした支援に努めている</p> <p>園利用について、毎月、利用予定表を提出してもらい、その月の利用状況を把握している。急な残業等で迎えの時間が遅くなる場合には、電話で連絡をもらい、開所時間の18時30分までの利用が可能である。土曜日の利用についても、給食提供の関係で前日の夕方までに申し出てもらえば、受け入れを可能としている。また、給食やおやつ時の子どものエプロンや0歳児は砂場の遊び着を職員の手作りで用意しており、返却ミスや衛生面での配慮も兼ね、園で洗濯をして使用している。布団のシーツも土曜日に園で洗濯をして保護者の負担を軽減している。</p> <p>懇談会や個人面談を通して発達や育児に共通認識が持てるように支援している</p> <p>年度当初に実施している「入園・進級お祝い会」で保護者が顔を合わせる機会があり、他に年に2回のクラス懇談会を実施している。懇談会等を通して顔見知りになった保護者同士が待ち合わせて一緒に遊んだりして交流をもっている。2歳児は卒園となることで次への移行を不安に思っている保護者もいることから、不安を払拭したいと考え、各家庭毎に1時間ずつ時間を取り、保護者が思いを語れるよう、「しゃべり009」として個人面談を実施した。毎日の連絡帳や、丁寧な対応で、保護者が園に信頼を寄せていることが利用者調査からも読み取れる。</p> <p>園だよりや連絡帳、送迎時の会話などで丁寧に様子を伝え園の保育理解に繋げている</p> <p>毎月の園のお便りには、月の保育のねらいや、各クラスの保育中の様子やエピソードなどを写真を付けて掲載している。前月のお誕生日会の子どもの写真や誕生日の手作りケーキ等も写真を入れて配信している。連絡帳は保育の内容を丁寧に記入しており、園での様子が良くわかり、保護者は読むことを楽しみにしていることや担任以外の職員もみんな子どもに関わっていることについて、信頼して安心して利用していると利用者調査に記載されている。保護者の希望もあることから新型コロナウイルス感染症の状況を見て、保育士体験等も実施していく予定である。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育施設の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>再開した児童館で遊ぶ機会があり感染症終息時には交流事業の再開をしたいと考えている</p> <p>開園当初から近隣の児童館の利用や区立の保育園の園庭で遊ぶ機会や近隣の高齢者の福祉施設の訪問等を実施していたが、コロナ禍により中断している状況にある。児童館については再開となったので、週に1回程度、各クラスが遊びに行っている。ホールや屋上で遊んだり、時間が合う時には児童館で実施している事業に参加させてもらうこともある。園ではコロナ感染症の状況が落ち着いた時期には、行っていた交流事業の再開を検討し園以外でも子どもたちが色々な経験をする機会をもちたいと考えている。</p> <p>近隣の商店やボランティアとの関わりを通し職員以外の人達と交流の機会がある</p> <p>毎日の散歩時に近隣の人たちと挨拶を交わしたり、食育活動で「かっぱ祭り」を行い、地域の八百屋に買い物に行ったりして交流をしている。ハロウィンでは、近隣の商店や法人内の本部に仮装して出かけて、お店の人や法人の職員に声をかけられてお菓子をもらったりして、園の職員以外の人達と交流する機会をもっている。また、夏には小学生のボランティアを10日間受け入れて、2度目の来園で子どもたちと接することにも慣れたためか、一緒に遊んだり接してもらうことを喜び、嬉しそうにすることの姿があり交流を楽しんでいる。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当	
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>入園のしおりで法人の苦情相談窓口を伝え、利用者の要望は日常的に聞き取っている</p> <p>ご利用のしおりに、法人の苦情窓口が明記され、入園時に説明をし、玄関には苦情窓口の電話番号を掲示している。しかし、苦情窓口は法人内になるので、法人外の第三者がいることをご利用のしおりに明記したり、掲示して意識して伝えていきたいと考えている。玄関には意見箱を設置している。保護者からの要望に対しては、日常的なコミュニケーションを取ることで、相談や要望に応じ、内容によっては園長に報告をして改善策を考えるようにしている。今後は、苦情解決マニュアルを作成するなど、相談の仕組みや第三者の位置づけなどの検討を期待したい。</p> <p>虐待に対しては組織的に取り組み、保育の中で職員間の言動を見守る関係を作っている</p> <p>法人として、虐待防止には力を入れて、毎月虐待防止委員会が開催され、園から担当者が参加し情報を共有したり、定期的に換算される虐待防止の研修には常勤職員が参加している。ピヨピヨおうちえんバージョンの虐待防止セルフチェックリストを年2回実施し、園長に提出し集計をして結果を職員に報告をしている。日常の保育の中で不適切なかかわりがないように、子どもに背を向けて座らないようにして、お互いが見守るような関係で保育ができるようにしている。区の保育サポートラインの相談窓口があるので、困った時には相談をしようと考えている。</p> <p>避難訓練を毎月実施し、作成した事業継続計画を職員や保護者に周知したいと考えている</p> <p>園としてのリスクの順番は、今は感染症で次に地震や災害と考えているが職員には周知していない。感染症に対しては、感染対策を徹底して取り組んでいる。避難訓練は、係が年間計画を立て、地震・火災時の訓練や不審者訓練も年1回実施している。法人と協力して、防災や防災・ヒヤリハットの収集・保健衛生などに対して係分担をして取り組んでいる。事業継続計画(BCP)は、委託契約をして作成し、常勤職員には説明をしたが具体的な役割は今後の検討になっている。短時間職員や保護者に対しての周知については、早急に取り組んでいきたいと考えている</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	毎日の保育の様子を一人一人の保護者に丁寧に伝えて園理解や信頼を得ている	
内容①	<p>コロナ禍で保護者参加の行事等が実施されない中で、園の保育を見てもらう機会も制限されている。そのため、送迎時には玄関で、家庭での様子を聞いたり、保育中のエピソード等を伝え、一人一人の保護者と子どもの情報を交換して共有している。保育中の子どもの様子は写真をたくさん撮り、販売用のサイトに掲載することで普段の生活や遊びの様子を感じてもらったり、園で使うエプロン等は職員の手作りで用意し、シーツの洗濯も園で行うことで、保護者の負担を減らしている。日々の丁寧な対応で職員と園に対する保護者の厚い信頼を得ている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	地域の資源の利用や職員以外の人との交流を通して園以外でも楽しく過ごす場所がある	
内容②	<p>これまで行っていた高齢者福祉施設等との交流はできない状況にあるが、児童館へ遊びに行ったり事業に参加させてもらったりしている。高校生と小学生のボランティアを受け入れており、小学生は一昨年と今年で2度目となり、子どもたちは喜んで一緒に遊んでいる。今年のハロウィンは物語の中で2歳児は宇宙人に変装をし、作ったプレゼントを持って、近隣の商店や系列法人の本部に出かけている。外出先では毎年楽しみに待っていてくれ、声をかけてもらいお菓子をもらったりして、地域の人との交流を通して楽しく過ごしている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	子どもの人権に配慮した保育や保育者としての言動を振り返る機会をもっている	
内容③	<p>子ども一人ひとりを尊重した保育を考え、大人の都合ではなく子どもが主役という、目の前にいる子どもにとって、園にいる時間が楽しい時間になるように考えて保育をしている。子どもの名前を呼び捨てにしないことはもちろん、子どもの意思を尊重して、好きな時間を過ごせるように配慮している。保育者は、不適切なかかわりがないように、虐待防止のセルフチェックリストを年2回実施して自分の言動を振り返る機会をもったり、保育室での職員間の子どもへの向き合い方を確認できるようにしている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日常生活や遊びが豊かに展開されるよう、保育環境を整えて工夫をしながら保育を実践しており、子どもも職員も保育を楽しんでいる
	内容	子どもの思いに共感をして子どもが主役になる保育の実践を心掛けている。保育室にはブロックやままごと玩具等の他に年齢に合わせて定期的なレンタルの玩具があり、子どもは楽しみにしている。職員が手作りしたミニカーを走らせる道路、人形の服、マジックテープ遊び等も発達に合わせ備えられており、少し高いところの玩具等を取るための踏み台を作ったりして、子どもが遊びを選んで実現できるように工夫している。行事等の際にはネーミングの工夫や子どもたちが覚えやすいオリジナルソング・替え歌等を作って、子どもも職員も保育を楽しんでいる。
2	タイトル	職員がコミュニケーションを取り合い、子どもを尊重して保育をすることを通して、職員間や保護者の信頼関係をより良くしている
	内容	園長は職員が、子どもを尊重し、共感的に関わることの大切さを理解して保育をしていることに信頼を寄せ、子どもが主役という考えを伝えている。職員は子どもを大事に保育を進めることに共感し、日常的に子どもの話をしたり、自分の考えを伝えることの大事さを実感している。職員調査からも、発言しやすい雰囲気があることや本音で話せるなどの声があり、職員間の関係の良さが伺われる。また、利用者からも、気さくで話しやすいことや子どもが納得できる対応をしてくれる、親の方が学ぶことが多いなどの信頼を寄せる声も聞かれ、高い満足度を得ている。
3	タイトル	年間の食育計画を作成して、子どもたちが楽しく参加できる内容での食育の実践活動があり、活動の内容は保護者にも知らせている
	内容	給食は楽しく食べることを目的に、新鮮な旬の食材を使用し、安全に配慮して提供をしている。2歳児を中心とした食育の年間計画の作成があり、食材の皮むき体験や行事に合わせてクッキング等を行っている。コロナ禍であり、衛生や安全に十分に配慮をして、月見団子作り(丸める)、餃子作り(包む)、餅つき(道具を使う)、恵方巻作り(巻く)等を体験しており、取り組みの様子は写真やお便りで保護者にも知らせている。また、誕生会では誕生月に合わせ、特大のケーキを作ってもらい、全員で切り分けて食べたりして食育実践を楽しむ子どもたちがいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園としてのリスクや事業継続計画(BCP)での職員の役割の確認とともに、短時間職員や保護者への周知を期待したい
	内容	園舎の水道管の事故に遭遇し、職員と冷静に対応することができた経験を踏まえ、園のリスクに対して考えておくことの大切さを感じ、リスクの洗い出しをして、感染症と地震・災害の順番をつけているが職員への周知は、まだになっている。地震や災害、新型感染症に対する事業継続計画(BCP)を作成して、常勤職員には説明をしているが、園の再開に対しての職員の役割などの詳細については今後検討をすることになっている。また、短時間職員や保護者に対しての説明についても今後の課題になっているので、早急の実施時期も含めた検討を期待したい。
2	タイトル	玩具類は年齢や興味に応じて配置をしており、遊び方や保管方法についてより良い環境構成のための園内研修等に期待をしたい
	内容	保育目標に「子どもの育つ力をのばし温かくはぐむ保育を目指す」ことを掲げて、子どもがやりたいと思ったことが実現できるように保育環境の設定をしている。開園4年目となり、職員は保育を振り返り、見直しをもって実践を積み重ねている段階にある。職員調査には、収納スペースの確保や玩具の取り扱い等についての意見もみられている。園内研修の機会を作ったり、職員会議等で、玩具の種類、数、入れ替えなどの検討を図るなどして、子どもと玩具についての検討や考察などを行うことで、更なる保育環境の充実を期待をしたい。
3	タイトル	短時間職員への保育の計画や子どもに関わる情報の提供方法などの検討をして、パートナー職員としてより信頼関係を深めることを期待したい
	内容	短時間で働く職員は保育を支える存在として、大切なパートナーとして位置付けている。しかし、様々な時間帯で働いているため、研修や会議への参加も難しく、事務室にある指導計画などの書類も自由に見ていいことを伝えているが、確認をする時間を取れない状況もある。園の決定事項の伝え漏れが生じていることもあるので、全職員が共有する情報は紙面に記録して確認をするなど、情報の提供方法について職員から意見を聞くなどして、より良い共有ができ信頼関係を深めることを期待したい。

